

## 平成12年度事業報告

平成12年9月18日/東京都・日本老年医学会事務所  
平成13年1月27日/東京都・経団連会館

## I. 庶務の概要

## 1. 会員の異動状況(平成13年3月31日現在)

## 1) 会員の異動

	前年度末	入会	退会	物故者	現在数
会員数	6,293	489	466	16	6,300
(正会員・名誉会員・特別会員)					

	前年度末	就任	退任	物故者	現在数
名誉会員	28	2	—	—	30
特別会員	69	16	4	1	80

	前年度末	入会	退会	物故者	現在数
賛助会員	26	1	—	—	27

## 2) 役員等の異動

	前年度末	新任	退任	物故者	現在数
理事	20	1	1	—	20
監事	3	1	1	—	3
幹事	6	2	2	—	6
評議員	265	5	30	1	285
事務職員	3	1	1	—	3

## 3) 物故会員(敬称略)

正会員	真柴裕人				
	井沢和弘	猪口 研二	笠木茂伸	鹿野真勝	
	白井達男	中村紘一郎	西森一正	原 正	
	広瀬健市	満間 照典	三宅寛治	三宅浩郷	
	宮田 泰	山城 守也	吉田雄彦		
					(連絡のあった方のみ)

## 2. 会議の事項

- 総会：平成12年6月15日/宮城県・仙台国際センター 大ホール(第47回)  
平成12年6月15日/宮城県・仙台国際センター 大ホール(第48回)
- 理事会：平成12年6月14日/宮城県・仙台国際センター  
平成13年1月27日/東京都・経団連会館
- 評議員会：平成12年6月15日/宮城県・仙台国際センター 大ホール
- あり方委員会：平成12年6月14日/宮城県・仙台国際センター  
平成13年1月27日/東京都・経団連会館
- 財務委員会：平成12年6月14日/宮城県・仙台国際センター  
平成13年1月27日/東京都・経団連会館
- 雑誌編集委員会：平成12年6月14日/宮城県・仙台国際センター  
平成13年1月27日/東京都・経団連会館
- 老人医療委員会：平成12年6月14日/宮城県・仙台国際センター  
平成13年1月27日/東京都・経団連会館
- 倫理委員会：  
平成12年5月31日/東京都・日本老年医学会事務所  
平成13年3月27日/東京都・日本老年医学会事務所
- 高齢者介護シフト検討委員会：  
平成12年6月16日/宮城県・仙台国際センター  
平成13年1月18日/東京都・日本老年医学会事務所
- 教育委員会：  
平成12年5月31日/東京都・日本老年医学会事務所  
平成12年6月14日/宮城県・仙台国際センター

## 11. 用語集委員会：

平成12年9月18日/東京都・日本老年医学会事務所

## 12. 老年医学教育カリキュラムのためのワーキンググループ：

平成12年5月31日/東京都・日本老年医学会事務所

## 13. 学術プログラム委員会：

平成12年6月14日/宮城県・仙台国際センター

平成13年3月6日/東京都・日本老年医学会事務所

## 14. 学会賞委員会

## 1) 優秀論文賞選考委員会：

平成12年5月8日/宮城県・東北大老年・呼吸器内科より持回り

## 2) ハルティス老化および老年医学研究基金選考委員会：

平成13年1月27日/東京都・経団連会館

## 15. 国際委員会：

平成12年6月14日/宮城県・仙台国際センター

平成12年9月18日/東京都・日本老年医学会事務所

平成13年1月27日/東京都・経団連会館

## 16. 広報委員会：平成12年6月16日/宮城県・仙台国際センター

## I. 事業の状況

## 1. 学術集会等の開催

## 1) 日本老年医学会年次学術集会

第42回日本老年医学会学術集会

会期：平成12年6月15日～17日

会長：佐々木英忠(東北大学医学部老年・呼吸器内科)

会場：仙台国際センター(仙台市)

学会テーマ：老年者介護の進歩

会長講演：要介護老人の医療と福祉

佐々木英忠(東北大学医学部老年・呼吸器内科)

招請講演：Cardio vascular disease and the elderly

J. Y. Wei (ハーバード大老人科)

特別講演：1. アルツハイマー病研究の現段階と展望(井原康夫)

2. 死と再生(岡本宏)

3. 加齢・老化・痴呆(今堀和友)

4. 医学判断学と臨床疫学(久道茂)

5. 21世紀高齢社会における看護・介護の展望

シボジウム：

1. 痴呆症をきたす疾患(司会・柳澤信夫、東儀英夫)

2. 老年者のこころの新しい医療(司会・松下正明、本間昭)

3. 若手企画シボジウム1 高齢者呼吸器疾患の治療に対する新戦略(今世紀の現状と21世紀への展望)(司会・松瀬健、高橋和久)

4. 寝たきり要望とリハビリテーションの進歩(司会・田中信行、岩谷力)

5. 療養型病床群の展望(司会・五島雄一郎、宮坂雄平)

6. 若手企画シボジウム2 アルツハイマー型痴呆の克服を目指して

(司会・難波吉雄、馬原孝彦)

フォーラム：

1. 施設看護・介護(ナース)(司会・鎌田ケイ子、村井淳志)

2. 在宅医療・看護・介護(ナース)(司会・上野桂子、遠藤英俊)

3. Aging Science Forum百寿者・長寿老人から学ぶ老年医学(司会・三木哲郎、福尾恵介)

ワークショップ：

1. 豊かな高齢社会を実現するための介護機器・住宅のあり方(司会・田村俊世、藤元登四郎)

2. 高齢者の余命と活動的余命(司会・柴田博、甲斐一郎)

3. 終末期医療(司会・井口昭久、野口美和子)

4. 口腔ケアと高齢者のQOL(司会・渡辺都馬、渡辺誠)

## 教育講演:

1. 高齢者のホモ補完療法の意義 (橋爪潔志)
2. 治療法選択のための脳卒中の脳循環代謝病態について (上村和夫)
3. 老年者高血圧治療が脳卒中を生かすために (日和田邦男)
4. 高齢者の胆膵疾患-剖検例の検索からわかったこと (木村理)
5. 造血幹細胞移植と加齢 (今村雅寛)
6. 癌に伴う神経障害 (犬塚貴)
7. 糖尿病における高血圧治療 (伊藤正毅)
8. 老年者高血圧の特徴とその治療 (三上洋)
9. 高齢者の腎疾患の診断と治療 (土井俊夫)

## ミニレビュー:

1. プロテアーゼと血管リモデリング (葛谷雅文)
2. アルツハイマー病の疾患関連遺伝子 (浦上克哉)
3. 100歳者の多面的検討-超高齢者調査より得られるもの (広瀬信義)
4. 老年者高血圧と遺伝子 (檜垣実男)
5. 高齢者の感染性心内膜炎 (近森大志郎)
6. 動脈硬化の新しい治療-遺伝子治療の可能性 (森下竜一)
7. 老年者糖尿病の経口血糖降下薬療法 (大庭建三)
8. アルツハイマー病研究の進歩-生物学的マーカー (東海林幹夫)
9. 高齢者におけるアルコール関連問題の現状、臨床、その問題点 (樋口進)
10. 動脈硬化性疾患の治療と予防 (横出正之)
11. 頸動脈硬化の臨床 (小原克彦)
12. 脳血管性痴呆の臨床 (岩本俊彦)
13. 酸化LDLと動脈硬化 (久米典昭)
14. 老年者糖尿病のインスリン治療 (永田正男)
15. アルツハイマー病の発症機構-アポE、プレセニリンを中心に (柳澤勝彦)

## ハルティ老化および老年医学研究基金受賞者講演:

1. 老年者呼吸器疾患における急性憎悪の早期診断の開発 (大塚孝)
2. 脳アミロイドアンギオパチの発症要因に関する研究 (山田正仁)
3. アルツハイマー病に関するグルタミン酸輸送蛋白の分子生物学的研究 (川上秀史)
4. 高齢者における血管内皮機能低下の機序に関する検討 (久木山清貴)
5. 孤発性パーキンソン病の病因の探索 (丸山和佳子)
6. 骨粗鬆症予防のための遺伝子マーカーの開発 (江見充)

## 市民公開講演会:

1. 介護保険と高齢者医療-2000仙台・介護保険元年- (司会・江藤文夫、白澤政和)
2. 老年者介護の進歩 (司会・小澤利男、柳澤信夫)

イベントシボジウム: 6題

フロンティア: 12題

一般演題: 362題

参加者数: 1505名

## 2) 日本老年医学会地方学術集会

## 第11回北海道地方会

会期: 2000. 4. 15

会場: ヲグ札幌ビル

会長: 阿部庄作 (札幌医科大学第3内科)

発表演題: 8題

特別講演: 「老人性肺炎の最近の話題」

関沢清久 (筑波大学内科)

参加者: 59名

## 第11回東北地方会

会期: 2000. 10. 14

会場: 秋田県総合保険センター

会長: 伊藤正毅 (秋田大学老年科学)

発表演題: 17題

教育講演1: 「地域高齢者の自殺予防の公衆衛生学的アプローチ」

本橋豊 (秋田大学公衆衛生学)

教育講演2: 「高齢者の自殺-秋田県の実態」

吉岡尚史 (秋田大学法医学)

参加者: 37名

## 第32回関東甲信越地方会

会期: 2000. 9. 16

会場: 東京女子医科大学弥生記念講堂

会長: 大川真一郎 (東京女子医科大学附属第2病院)

発表演題: 34題

教育講演: 「老年医学の過去、現在、未来-介護保険時代を迎えて」

小澤利男 (東京都老人医療センター)

参加者: 196名

## 第33回関東甲信越地方会

会期: 2001. 3. 3

会場: 東京大学安田講堂

会長: 大内尉義 (東京大学加齢医学)

発表演題: 32題

教育講演: 「わが国における長寿医療の今後の展望」

柳澤信夫 (国立療養所中部病院長寿医療研究センター)

参加者: 174名

## 第11回東海地方会

会期: 2000. 9. 30

会場: 名古屋市中小企業振興会館

会長: 山田英雄 (国立療養所東名古屋病院名誉院長)

発表演題: 15題

特別講演: 「未来長寿社会-介護保険導入を機に考える~介護保険の展望」

井形昭弘 (愛知県健康づくり振興事業団理事長)

教育講演: 「高齢者医療・福祉分野におけるマンパワー養成について」

奈倉道隆 (東海学園大学人文学部)

シボジウム: 介護保険導入後に高齢者がどう変わったか

座長 遠藤英俊 (国立療養所中部病院内科)

1. 介護支援専門員の業務から  
村松好房 (愛知県介護福祉会顧問)
2. 老健施設がもつ「家庭復帰(通過)施設」「在宅支援施設」機能継続への危惧  
深見重夫 (介護老人保健施設相生・相談室長)
3. 神経難病患者の要介護度とケア内容  
河合多喜子 (国立療養所東名古屋病院神経難病棟・婦長)
4. 知多北部広域連合認定審査会の場合  
山本楯 (大府市山本医院・院長)

参加者: 101名

## 第2回東海地方支部講演会

会期: 2000. 11. 18

会場: 名古屋大学医学部内「鶴友会館」大会議室

支部長: 井口昭久 (名古屋大学老年医学)

教育講演: 「介護保険制度におけるグループホームの現状と将来」

痴呆のケアとグループホーム 岡本祐三 (神戸市立看護大学)

シボジウム: 介護保険の周辺-痴呆性高齢者とその家族の人権擁護

座長 内藤通孝、益田雄一郎 (名古屋大学老年科)

1. 概論 内藤通孝、益田雄一郎 (名古屋大学老年科)
2. 痴呆電話相談から見えてくるもの  
尾之内直美 (呆け老人をかかえる家族の会愛知県支部)
3. 成年後見制度

- ・新しい成年後見制度について 三村行高(名古屋家庭裁判所)
- ・弁護士から見た成年後見制度の今後の活用について  
熊田均(名古屋弁護士会高齢者問題対策特別委員会)
- 4. 高齢者と家族の権利擁護ー福祉ワグスマンと介護相談員派遣事業 中井景子(愛知県社会福祉会)
- 5. 介護休業制度 古橋エツ子(花園大学社会福祉学部)

## 第11回北陸地方会

会期: 2000. 10. 14  
会場: 富山医科薬科大学看護学科1会1番教室  
会長: 井上博(富山医科薬科大学第2内科)  
発表演題: 12題  
教育講演: 「高齢者感染症対策の今日的課題」  
稲松孝思(東京都老人医療センター感染症科)  
参加者: 45名

## 第11回近畿地方会

会期: 2000. 11. 11  
会場: 京都府立医科大学基礎医学学会  
会長: 中島健二(京都府立医科大学神経内科・老年内科)  
発表演題: 47題  
特別講演: 「成年後見法と事理弁識無能力者の保護」  
植木哲(関西大学法学部)  
参加者: 184名

## 第12回中国地方会

会期: 2000. 11. 18  
会場: 広島県歯科国保会館  
会長: 長瀧重信(財団法人放射線影響研究所)  
発表演題: 21題  
教育講演: 「これからの高齢者医療ーその理念と戦略」  
折茂肇(東京都老人医療センター)  
参加者: 89名

## 第12回四国地方会

会期: 2001. 2. 17  
会場: 香川県社会福祉総合センター  
会長: 西岡幹夫(香川医科大学第3内科)  
発表演題: 27題  
特別講演: 「遺伝子医学を評論する」吉田豊(弘前大学長)  
参加者: 74名

## 第11回九州地方会

会期: 2001. 3. 3  
会場: シーガイア ワールド コンベンションセンターサミットファウンテンルーム(2F)  
会長: 齊藤昇(宮崎愛和病院 内科・成人病研究室)  
発表演題: 11題  
特別講演: 「老人性肺炎の新しい治療」  
佐々木英忠(東北大学老年・呼吸器内科)  
ランチセミナー:  
1. 「要介護高齢者の咀嚼機能と口腔内環境」  
菊谷武(日本歯科大学高齢者歯科)  
2. 「アルツハイマー型痴呆の診断と治療」  
三山吉夫(宮崎医科大学精神科)  
シンポジウム: 新世紀を迎えた老年医療の展望  
座長 藤島正敏(九州大学名誉教授)  
齊藤昇(宮崎愛和病院内科・成人病研究室)

1. 地域住民における高齢者ADLの現状 和田紀子(久山町役場)  
谷崎弓裕、清原裕(九州大学病態機能内科学)
2. 老人医療のあり方ー診療所の視点  
大西雄二(宮崎市・大西医院)
3. 住民参画型の脳卒中対策と政策医療

- 岡田靖(国立病院九州医療センター脳血管内科)
4. Evidence based medicine (EBM) に基づく老年医療の現状  
齊藤昇(宮崎愛和病院 内科・成人病研究室)
  5. 経腸栄養患者の現状と対策  
湧上聖(ちゅうざん病院リハビリテーション科)
  6. 老人医療のあり方 藤島正敏(九州大学名誉教授)
- 参加者: 88名

## 3) 講演会

## 第5回「老年医学」市民公開講演会

老年者介護の問題点と今後の動向

会期: 平成12年9月9日

会場: 全電通ホール(東京都千代田区)

午前: 老年者介護の問題点

司会 井口昭久(名古屋大学老年科)、水島 豊(弘前大学老年科)

講演1. 施設介護 遠藤英俊(国立療養所中部病院内科)

2. 訪問看護ステーションから見て

宮崎和加子(健和会・訪問看護ステーション)

3. 家族介護 村嶋幸代(東京大学看護学)

午後: 老年者介護の今後の動向

司会 江藤文夫(東京大学リハビリテーション部)、大内尉義(東京大学老年病科)

講演4. デイヤ 森本益雄(森本外科・脳神経外科医院)

5. 看護と介護 山崎摩耶(日本看護協会)

6. 介護保険制度の実施状況について

眞鍋 馨(厚生省老人保健福祉局老人保健課)

参加者数: 350名

## 2. 学会誌その他の出版物の刊行

## 1. 学会誌「日本老年医学会雑誌」

1) 定期号 第37巻4号~12号及び第38巻1号~3号 合計12号発行した。

2) Supplement 第42回学術集会講演抄録集として第37巻のSupplementを5月に発行した。

## 3. 学会認定 専門医、指導医、教育施設の認定

## 1) 専門医の認定

日本老年医学会認定 専門医制度規則により第9回専門医試験を平成12年7月16日、全共連ビル会議室(東京都千代田区)において実施した。

審議会において試験合格者を決定し、教育委員会、理事会の議を経て47名を認定した。

## 2) 指導医の委嘱

日本老年医学会認定 専門医制度規則により提出された指導医申請書類の審査を実施し、新たに40名を認定し委嘱した。

## 3) 教育施設の認定

日本老年医学会認定医制度規則により提出された認定施設申請書類の審査を実施し、新たに15施設を認定した。

4) 平成13年3月31日において認定を受けた日から満5年を経る専門医、指導医、認定施設に対し、日本老年医学会認定 専門医制度規則により提出された書類の審査を実施し、専門医157名、指導医47名、認定施設13施設の更新を認定した。

## 4. 研究の奨励、研究業績の表彰

## 1) 第7回日本老年医学会優秀論文賞

日本老年医学会雑誌第36巻1号から12号(平成11年1月~12月発行)に掲載された論文の中から選考し、笹井恵子、鳥羽研二、宮尾益理子の3会員を日本老年医学会優秀論文賞受賞者として

平成12年6月15日の総会において顕彰した。

2) 「パルティス老化および老年医学研究基金」

研究助成金の受領該 当者の選考

平成13年1月27日の選考委員会により選考された会員：久米典昭、篠遠 仁、白澤卓二、山下拓史、楽木宏美（以上研究助成）、小川修、馬淵卓真、安田尚史（以上海外交流助成）の各会員。

5. 内外の関連学術団体との連絡及び協力

1) 加盟学術団体である日本老年学会の運営を、日本老年社会科学会、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本老年精神医学会と共に協議協力した。

2) 日本学術会議癌・老化研究連絡委員会及び日本癌学会と共にシンポジウム「癌・老化研究のシニア戦略」を、共催した。

会期：平成12年6月22日

開催場所：日本学術会議ホール

座長 大内尉義（東京大学加齢医学）、小林健一（金沢大学第1内科）

1. がん研究、がん予防の戦略 寺田雅昭（国立がんセンター）
2. 老化研究、老化対策の戦略 折茂 肇（東京都老人医療センター）
3. 日本の医療への提言 田辺 功（朝日新聞編集委員）
4. 21世紀の日本の医療 岩尾總一郎（厚生省厚生科学課長）

3) 第13回国際長寿科学シンポジウムを後援

会期：平成12年10月19日

開催場所：あいち健康の森健康科学総合センター（愛知県）

4) 第12回国際甲状腺学会議を後援

会期：平成12年10月22日～27日

開催場所：京都

5) 第4回高齢者介護・看護・医療フォーラムを後援

会期：平成12年10月28日

開催場所：大阪

6) 高齢社会NGO連携協議会（略称「高連協」）に引き続き参加する。

6. その他、目的を達成するために必要な事業

1) 国際委員会は学会英文誌「Geriatrics & Gerontology International」の2001年9月発刊に向けて、準備中である。

I 収支計算書

(自平成12年4月1日 至 平成13年3月31日)

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入	( 100,000 )	( 24,000 )	( 76,000 )	
基本財産利息収入	100,000	24,000	76,000	
2. 会費収入	( 77,400,000 )	( 78,548,000 )	( △ 1,148,000 )	
正会員会費収入	75,000,000	75,848,000	△ 848,000	
賛助賛助会費収入	2,400,000	2,700,000	△ 300,000	
3. 事業収入	( 49,130,000 )	( 67,237,760 )	( △ 18,107,760 )	
学術集会収入				
参加費収入	13,000,000	13,484,000	△ 484,000	
協賛金収入	13,000,000	29,252,370	△ 16,252,370	
雑収入	100,000	3,002,558	△ 2,902,558	
会誌発行収入	10,600,000	8,885,800	1,714,200	
広告掲載料収入	4,200,000	5,620,620	△ 1,420,620	
別刷代掲載料等収入	1,780,000	830,390	949,610	
会誌購読頒布代収入				
認定医制度収入	1,000,000	980,000	20,000	
認定医審査料収入	2,850,000	1,410,000	1,440,000	
認定医認定料収入	2,500,000	3,700,000	△ 1,200,000	
認定医更新料収入	100,000	72,022	27,978	
雑収入				
4. 助成金収入	( 200,000 )	( 1,660,000 )	( △ 1,460,000 )	
助成金収入	200,000	1,660,000	△ 1,460,000	
5. 寄付金収入	( 10,000,000 )	( 10,000,000 )	( 0 )	
寄付金収入	10,000,000	10,000,000	0	
6. 雑収入	( 600,000 )	( 167,531 )	( 432,469 )	
受取利息	500,000	167,251	332,749	
雑収入	100,000	280	99,720	
当期収入合計(A)	137,430,000	157,637,291	△ 20,207,291	
前期繰越収支差額	45,065,651	45,065,651	0	
収入合計(B)	182,495,651	202,702,942	△ 20,207,291	
II. 支出の部				
1. 事業費	( 101,800,000 )	( 110,561,745 )	( △ 8,761,745 )	
学術集会等開催事業費				
総会運営費	19,900,000	33,224,054	△ 13,324,054	
総会会場費	9,000,000	13,164,300	△ 4,164,300	
地方会運営費	2,900,000	2,000,000	900,000	
教育企画運営費	1,600,000	1,600,000	0	
会誌等出版事業費				
会誌印刷製本費	31,000,000	28,859,902	2,140,098	
会誌運送費	8,500,000	7,524,222	975,778	
会誌編集費	1,500,000	1,910,458	△ 410,458	
認定医制度事業費				
認定医制度運営費	5,000,000	3,936,521	1,063,479	
試験実施費	1,500,000	1,294,666	205,334	
電算機プログラム作成費	200,000	131,092	68,908	
研究奨励事業費				
優秀論文賞	300,000	300,000	0	
研究基金	10,000,000	8,200,000	1,800,000	
加盟学術団体負担金	1,400,000	1,272,200	127,800	
啓発事業費	2,000,000	1,939,485	60,515	
会費議通費	1,500,000	1,004,687	495,313	
旅費交通費	2,000,000	1,411,590	588,410	
通信運搬費	1,500,000	1,375,432	124,568	
印刷製本費	1,500,000	951,300	548,700	
消耗品費	500,000	461,836	38,164	
2. 管理費	( 44,350,000 )	( 41,885,121 )	( 2,464,879 )	
人件費	19,000,000	19,569,023	△ 569,023	
福利厚生費	2,000,000	2,101,804	△ 101,804	
旅費	1,600,000	1,516,610	83,390	
会議費	800,000	806,719	93,281	
通信運搬費	2,000,000	1,953,444	46,556	
印刷製本費	1,000,000	247,359	752,641	
消耗品費	600,000	542,884	57,116	
光熱水	700,000	617,550	82,450	
賃借料				
事務所室料	9,200,000	9,167,860	32,140	
事務機器使用料	1,300,000	621,915	678,085	
委託				
電算機保守料等	3,300,000	3,104,493	195,507	
振込手数料	900,000	408,710	491,290	
加盟団体分担金	150,000	150,000	0	
電算機プログラム作成費	500,000	0	500,000	
退職給与引当金繰入額	1,000,000	1,000,000	0	
雑	200,000	76,750	123,250	
3. 積立預金利息繰入額	( 0 )	( 83,762 )	( △ 83,762 )	
退職積立預金利息繰入額		43,203	△ 43,203	
国際関係費積立預金利息繰入額		11,837	△ 11,837	
書籍刊行積立預金利息繰入額		4,326	△ 4,326	
研究助成積立預金利息繰入額		4,801	△ 4,801	
事務所設備積立預金利息繰入額		6,828	△ 6,828	
管理費整備積立預金利息繰入額		6,626	△ 6,626	
事務所費用積立預金利息繰入額		6,141	△ 6,141	
4. 積立預金支出	( 0 )	( 5,000,000 )	( △ 5,000,000 )	
研究助成積立預金支出		1,000,000	△ 1,000,000	
事務所設備積立預金支出		1,000,000	△ 1,000,000	
管理費整備積立預金支出		3,000,000	△ 3,000,000	
5. 予備費	( 380,000 )	( 0 )	( 380,000 )	
当期支出合計(C)	146,530,000	157,530,628	△ 11,000,628	
当期収支差額(A)-(C)	△ 9,100,000	106,663	△ 9,206,663	
次期繰越収支差額(B)-(C)	35,965,651	45,172,314	△ 9,206,663	

II. 正味財産増減計算書

(自平成12年4月1日 至 平成13年3月31日)

科目	金額	
I 増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	106,663	
退職積立預金増加額	1,043,203	
国際関係費積立預金増加額	11,837	
書籍刊行積立預金増加額	4,326	
研究助成積立預金増加額	1,004,801	
事務所設備積立預金増加額	1,006,828	
管理費整備積立預金増加額	3,006,626	
事務所費用積立預金増加額	6,141	6,190,425
増加額合計		6,190,425
II 減少の部		
1. 資産減少額		
建物附属設備減価償却費	161,334	
什器備品減価償却費	320,052	481,386
減少額合計		481,386
当期正味財産増加額		5,709,039
期首正味財産合計額		144,341,643
期末正味財産合計額		150,050,682

III 貸借対照表

平成13年3月31日 現在

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	69,066	
預金	47,502,117	
未収金	668,800	
未収会費	2,928,000	
前払金	3,500,000	
流動資産合計		54,667,983
2. 固定資産		
基本財産		
定期預金	20,000,000	
その他の固定資産		
(1) 建物附属設備	663,119	
(2) 什器備品	1,596,799	
(3) 電話加入権	216,000	
(4) 保証金	6,357,000	
(5) 退職積立預金	26,196,084	
(6) 国際関係費積立預金	15,113,949	
(7) 書籍刊行積立預金	4,318,550	
(8) 研究助成積立預金	6,049,019	
(9) 事務所設備積立預金	8,073,158	
(10) 管理費整備積立預金	10,871,227	
(11) 事務所費用積立預金	5,423,463	
小計	84,878,368	
固定資産合計		104,878,368
資産合計		159,546,351
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	7,351,754	
前受会費	1,414,000	
預り金	729,915	
流動負債合計		9,495,669
負債合計		9,495,669
III 正味財産の部		
正味財産	150,050,682	
(うち基本財産)	( 20,000,000 )	
(うち当期正味財産増加額)	( 5,709,039 )	150,050,682
負債及び正味財産合計		159,546,351

IV 財 産 目 録

平成 13 年 3 月 31 日 現在 (単位:円)

科 目	金 額	金 額	金 額
I 資産の部			
1. 流動資産			
1) 現金		69,066	
2) 普通預金		3,456,878	
- 第一東京小		7,342,766	
- 第一東京小		9,684	
3) 郵便振替		10,809,328	
- 第一東京小		2,259,554	
- 第一東京小		251,230	
- 第一東京小		182,005	
4) 定期預金		2,692,789	
- 第一東京小		10,000,000	
- 第一東京小		14,000,000	
- 第一東京小		10,000,000	
5) 未収金		34,000,000	
6) 未正会費		668,800	
7) 前払金		2,928,000	
- 教育費		700,000	
- 前払金		2,800,000	
流動資産合計		3,500,000	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
- 第一東京小		20,000,000	
(2) その他の固定資産			
(1) 建物		663,119	
(2) 什器備品		1,596,799	
(3) 電話加入料		216,000	
(4) 保証金		6,357,000	
(5) 退職積立金		26,196,084	
(6) 国庫積立金		15,113,949	
(7) 第一東京小		4,318,550	
(8) 第一東京小		6,049,019	
(9) 第一東京小		8,073,158	
(10) 第一東京小		10,871,227	
(11) 第一東京小		5,423,483	
固定資産合計		84,878,368	
資産合計		104,878,368	159,546,351

1. 重要な会計方針

資金の範囲について  
資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金及び預り金を含めることにしている。  
なお、前期末及び当期末残高は、3.に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
合計(基本金)	20,000,000	0	0	20,000,000

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	94,043,711	47,571,183
未収金	0	668,800
未収会費	5,592,000	2,928,000
前払金	3,500,000	3,500,000
合計	103,135,711	54,667,983
未払金	9,017,722	7,351,754
前受会費	48,390,000	1,414,000
預り金	662,338	729,915
合計	58,070,060	9,495,669
次期繰越収支差額	45,065,651	45,172,314

平成13年 5月 30日

監 事 意 見 書

社団法人 日本老年医学会  
理事長 折茂 肇 殿

社団法人 日本老年医学会

監 事 鳥羽 研二



監 事 妻鳥 昌平



監 事 横野 浩一



私達は、民法第59条および社団法人日本老年医学会定款第15条の規定に基づいて、本社団法人の財産および理事の業務執行の状況を監査いたしました。

監査の結果、私達は、本社団法人の平成12年4月1日から平成13年3月31日までの平成12年会計年度の財務諸表、すなわち収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録が公益法人会計基準に準拠して作成されており、本社団法人の平成12年会計年度の財政状態および収支状況を適正に表示しているものと認めます。

また、本社団法人の財産と理事の業務執行の状況は、共に健全かつ適正であると認めます。

上記のとおり、監事の意見を報告いたします。

以 上

科 目	金 額	金 額	金 額
II 負債の部			
1. 未払金			
- 第一東京小		5,999,698	
- 第一東京小		1,352,056	
2) 前正会費		7,351,754	
- 第一東京小		1,114,000	
- 第一東京小		300,000	
3) 預り金		1,414,000	
- 第一東京小		268,371	
- 第一東京小		204,800	
- 第一東京小		255,744	
- 第一東京小		729,915	
負債合計		9,495,669	
負債合計			9,495,669
負債合計			150,050,682

## 平成14年度事業計画

期間 平成14年4月1日～平成15年3月31日

## 1. 学術集会等の開催

## 1) 日本老年医学会年次学術集会

第44回日本老年医学会学術集会

会期：平成14年6月12日～14日

会長：高崎 優（東京医科大学老年病科）

会場：京王プラザホテル（新宿区西新宿2-2-1）

学会テーマ：21世紀のよりよき老人医療の確立

会長講演：老化とビタミンE 高崎 優（東京医科大学老年病科）

招待講演：この半世紀における加齢に伴う脳神経疾患の変遷

平野朝雄（Montefiore Medical Center神経病理教授）

特別講演

1. 加齢とQOL 日野原重明（聖路加病院理事長）

2. 高齢者の薬物代謝－最近の進歩 谷川原祐介（慶應大学薬学部）

シンポジウム

1. 老人医療におけるEBM－動脈硬化性疾患の一次予防、二次予防

司会 荻原俊男（大阪大加齢医学） 大内尉義（東京大加齢医学）

1. 動脈硬化の成り立ち 齋藤 康（千葉大学第2内科）

2. 高齢者高血圧治療ガイドライン 島本和明（札幌大学第2内科）

3. 高齢者高脂血症の治療 寺本民生（帝京大学内科）

4. 虚血性心疾患の再発予防 土居義典（高知医科大学老年病科）

5. 脳血管障害の再発予防 山口武典（国立循環器病センター）

2. 老年病の予防と管理 (I)－脳卒中、痴呆、うつ、嚥下障害、栄養障害

司会 大友英一（浴風会病院） 佐々木英忠（東北大老年・呼吸器内科）

1. 高齢者に見られる脳血管障害 吉田亮一（浴風会病院）

2. 痴呆化の要因 岩本俊彦（東京医科大学老年病科）

3. うつ－post-stroke depression

片山泰朗（日本医科大学第2内科）

4. 嚥下障害の診断と管理

藤島一郎（聖隷三方原病院リハビリテーション科）

指定発言）誤嚥機序からみた治療

矢内 勝（東北大学老年・呼吸器内科）

5. 栄養障害の管理 柴田 博（桜美林大学健康心理学科）

3. 老年病の予防と管理 (II)－骨粗鬆症、転倒、骨折、廃用症候群、褥瘡

司会 井上哲郎（浜松医大名誉教授） 江藤文夫（東京大リハ科）

1. 高齢者にみられる骨粗鬆症 細井孝之（東京都老人医療センター）

2. 転倒の要因 真野行生（北海道大学リハビリテーション科）

3. 骨折とその管理 中村利孝（産業医科大学整形外科）

4. 廃用症候群の予防 高橋龍太郎（東京都老人総合研究所）

5. 褥瘡 川端康浩（東京大学皮膚科）

ワークショップ：老年者疾患別ガイドラインの現状と改正点－呼吸器

司会 福地義之助（順天堂大学呼吸器内科）

1. 肺炎 松島敏晴（川崎医科大学内科）

2. COPD 永井 厚（東京女子医科大学第1内科）

教育講演：

1. 高齢者における消化器疾患 馬場忠雄（滋賀医科大学第2内科）

2. 高齢者肺結核の診断と治療 成田亘啓（奈良医科大学第2内科）

3. 高齢者心不全の治療と管理 松本正幸（金沢医科大学老年病科）

4. 高齢者のリハビリテーション 千野直一（慶應義塾大学リハビリテーション医学）

5. 耳鼻科からみた高齢者のめまい 鈴木衛（東京医大耳鼻咽喉科）

6. 眼科からみた高齢者眼疾患 戸張幾生（東邦大学第2眼科）

7. 皮膚科からみた高齢者皮膚疾患 斉藤隆三（東邦大学皮膚科）

8. 高齢者の骨・関節疾患 林 泰史（東京都多摩老人医療センター）

9. 尿失禁の問題点 鳥羽研二（杏林大学高齢医学）

10. 高齢者の機能評価と患者のQOL

松林公蔵（京都大学東南アジア研究センター）

11. 頸動脈病変の臨床的意義 岩本俊彦（東京医科大学老年病科）

12. 内皮由来循環調節因子による血管リモデリングの分子機構

平田結喜緒（東京医科歯科大学体内分子制御学）

市民公開講座：介護保険と高齢者医療－2002東京－

司会 井口昭久（名古屋大老年科学） 飯島節（筑波大心身障害学系）

Aging Science Forum：1題

若手企画：2題

パネリスト老化および老年医学研究基金2000年度受賞者講演

イベントシンポジウム：

1. 介護保険における老年科医の役割

司会 井口昭久（名古屋大老年科学） 鳥羽研二（杏林大学高齢医学）

オープニングリマーカー老年科医に足らなかったもの

井口昭久（名古屋大学老年科学）

1. 要介護認定における老年科医の役割

遠藤英俊（国立療養所中部病院内科）

2. 痴呆の診断とケアにおける老年科医の役割

武地 一（京都大学加齢医学）

3. ケミカルケアにおける老年科医の役割

水川真二郎（杏林大学高齢医学）

4. 機能評価とケアにおける老年科医の役割

飯島 節（筑波大学心身障害学系）

5. ケアに関する卒前卒後教育における老年科医の役割

鈴木裕介（名古屋大老年科学）

クロージングリマーカーEvidence-based Careの構築に向けて

鳥羽研二（杏林大高齢医学）

2. 高齢者悪性疾患－どこまで治療できるか

司会 武藤徹一郎（癌研究所付属病院）

土器屋卓志（国立大二病院放射線科）

1. 肺癌 加藤治文（東京医科大学第1外科）

2. 胃癌 浅木 茂（東北大学内科）

3. 大腸癌 須田武保（新潟大学第1外科）

4. 肝・胆嚢癌 森安史典（東京医科大学第4内科）

5. 造血器腫瘍 森真由美（東京都老人医療センター）

3. 増加する老年者の生活習慣病

司会 北 徹（京都大加齢医学） 妻島昌平（大宮共立病院敬寿園）

1. 高齢者における生活習慣病の動向 大内尉義（東京大加齢医学）

2. 高齢者の高血圧と減塩 森本茂人（大阪大学加齢医学）

3. 高齢者の糖尿病と管理 横野浩一（神戸大学老年医学）

4. 高齢者の高脂血症 横出正之（京都大学加齢医学）

5. 高齢者と肥満 橋爪潔志（信州大学老年医学）

4. アルツハイマー病の基礎と臨床

司会 中村重信（広島大学第3内科） 三木哲郎（愛媛大学老年医学）

1. アルツハイマー病の病理 水谷俊雄（都立神経病院検査科）

2. 成因に関する分子生物学的アプローチ 岩田修永（理化学研究所）

3. 臨床診断 本間 昭（東京都老人総合研究所）

4. 画像診断 羽生春夫（東京医科大学老年病科）

5. 予防療法 遠山育夫（滋賀医科大学分子神経科学研究センター）

## 2) 日本老年医学会地方学術集会

第13回日本老年医学会北海道地方会

第13回日本老年医学会東北地方会

第36回日本老年医学会関東甲信越地方会

第37回日本老年医学会関東甲信越地方会

第13回日本老年医学会東海地方会

第4回日本老年医学会東海地方支部講演会

第13回日本老年医学会北陸地方会

第13回日本老年医学会近畿地方会

第14回日本老年医学会中国地方会

第14回日本老年医学会四国地方会

第13回日本老年医学会九州地方会

## 2. 学会誌その他の出版物の刊行

和文誌「日本老年医学会雑誌」

1) 定期号 第39巻3号～6号及び第40巻1号～2号 合計6冊発行予定

2) Supplement 第44回学術集会講演抄録集として第39巻のSupple-

mentを5月に発行予定  
英文誌「Geriatrics & Gerontology International」定期号として年4冊発行予定

3. 学会認定 専門医、指導医、教育施設の認定

1) 専門医の認定

日本老年医学会認定 専門医制度規則により第11回専門医試験を平成14年7月に東京都千代田区において実施する。  
受験には日本老年医学会認定 専門医制度に規定する研修カリキュラムに従った老年病学臨床研修を要する。  
試験合格者を決定し認定する。

2) 指導医の委嘱

日本老年医学会認定 専門医制度規則により提出される指導医申請書類の審査を実施し、委嘱する。

3) 教育施設の認定

日本老年医学会認定 専門医制度規則により提出される認定施設申請書類の審査を実施し、認定する。

4) 平成15年3月31日において認定を受けた日から満5年を経る専門医、指導医、認定施設に対し、日本老年医学会認定 専門医制度規則により提出される書類の審査を実施し、更新を認定する。

4. 研究の奨励、研究業績の表彰

1) 日本老年医学会優秀論文賞

日本老年医学会雑誌第38巻1号から6号(平成13年1月~11月発行)に掲載された論文の中から、優秀な論文を選考し、顕彰する。

2) 「ハルイス老化および老年医学研究基金」研究助成金の受領該当者の選考

老年医学、基礎老化学の分野において臨床的、基礎的研究の発展促進を図ることを目的としている上記基金による研究助成の受領該当者を選考する。

5. 内外の関連学術団体との連絡及び協力

1) 加盟学術団体である日本老年学会の運営を、日本老年社会学会、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本老年精神医学会と共に協議協力する。

2) 2002国際長寿科学シンポジウムを後援

会期：平成14年11月

開催場所：名古屋市

3) 第6回高齢者介護・看護・医療フォーラムを後援

会期：平成14年11月

6. その他、目的を達成するために必要な事業

1) 各種委員会

あり方委員会

財務委員会

雑誌編集委員会

老人医療委員会

(ad hoc committee) 倫理委員会

(ad hoc committee) 高齢者介護システム検討委員会

教育委員会

(ad hoc committee) 老年医学用語集委員会

老年医学教育カリキュラムのためのワーキンググループ

学術プログラム委員会

学術賞委員会

優秀論文賞選考委員会

ハルイス老化および老年医学研究基金選考委員会

国際委員会

広報委員会

定款及び定款細則変更に関するワーキンググループ

2) 「老年医学」市民公開講演会

平成13年度に引き続き開催

平成14年度 収 支 予 算 書

(自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)

(単位:円)

Table with columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 増減, 備考. It details the budget for the Japanese Geriatrics Society for the fiscal year 2002, including income from subscriptions, membership fees, and various expenses for research, education, and administration.